

Eーメンバーからの意見⑥(9月23日現在提出分)

平成22年9月27日 公共施設再配置計画担当作成

1 前回までの委員会の討議内容に対する意見

No. 1 男性 49歳

『第9回検討委員会への意見として』

1. 平成22年度行政評価を視聴しての意見

8月28日、29日の両日に、市役所に於いて対象15事業についての行政評価が行われました。

その中で、公共施設の再配置計画に関わってくると思う事業がありましたので、若干意見を述べたいと思います。

1-1. 宮永岳彦記念美術館

鶴巻温泉の「弘法の里湯」に隣接している当美術館ですが、今回初めて、これが設立された経緯や現在の収支状況について知りましたが、どうも行政担当者が“見えない呪縛”にさいなまれているような感じを受けました。

1日の(美術館目当ての)来館者数がわずか9人ということを考えたら、到底維持する必要はなく、真っ先に再配置の対象となってしかるべきですが、どうも二の足を踏んでいる印象を受けます。

評価者も、失礼な言い方という前置きながら、“もはや迷惑な寄付ということでは・・・”というようなことでした。

宮永画伯側との契約がネックになっているのが原因かと思いますが、それを優先して維持してはいつまでたっても再配置が進まず、また鶴巻地区の地域発展にも影響してくると思います。

この件を見て、いかに再配置が難しいか、複雑な事情の下に運営されているか・・・ということを知り、この絡み合った事情を解きほぐすことから始めなければいけないという困難さを知りました。

宮永画伯の作品については、「ぺんてるクレヨン」や「チャイルドブック」の原画としても有名らしいです。観光協会では画伯の絵をモチーフにした湯上りや手ぬぐいを販売するということですが、もっと広く訴求するということでは、例えば小田急の中吊り広告にその湯上りや手ぬぐいをそのまま掲げるといった手もあります。

もちろん持ち去る人がいると思いますが、それは織り込み済み、むしろ「持ち去る話題性」で注目してもらおうという事です。

その程度の仕掛けを考えない限り、存続の光明は見出せないかも知れません。

1-2. なでしこ会館

これは秦野駅前の立地でJAの持ち物となっていて、秦野市が賃貸料を支払ってスペースを借りているという説明でしたが、第一・第二会議室の利用率（90%台）に比べて、展示室の利用率は6割台に留まっています。

先の宮永記念美術館の脇には市民ギャラリーがあって、そこで代替できそうな感じです。それに、経費としては21年度で全体2,400万円強かかっているのに対して、使用料による収入は620万円ほどに留まっていますから、「集中と選択」にあたっては、このなでしこ会館も候補に値すると実感しました。

1-3. 文化会館

これは存続云々というよりも、この会館への興行の呼び込み基準がかなり曖昧かつずさんな印象を受けました。

当館のスタッフによれば、“そもそもの目的は市民に対する文化啓蒙・促進にあるので、赤字であっても構わないところもある云々”という認識でした。

再配置計画の報告書の中に、「市民会館等のホールの稼働状況」を示す資料がありましたが、座席の占有率（埋まり具合）は示されませんでした。

興行においても、年間の稼働状況ではなく「座席の埋まっている割合」から、“集客できる興行”という観点からの分析が足りず、単に館長の感覚で興行内容が決定されているような印象でした。

仮に赤字になっても、「市民に対する文化啓蒙・促進」という理由の元に許されてしまうような感じです。

2. 検討委員会に対する今後の期待

Eメンバー選任の活動期間は10月までですので、恐らく今回が意見を述べる最後の機会だと思います。そこで、委員会およびEメンバーについて若干意見したいと思います。

以前にも申し述べましたが、この提言書の内容について今後きちんと履行されるのかという担保が今イチ不明瞭な気がします。

この委員会も活動後は解散し、有識者の方も肩の荷が下りて次第に秦野のことは忘れていくでしょう。

担当した市役所スタッフも異動があるかも知れませんし、そうでなくても業務に伴って、興味関心の対象は他の事案に移っていくと思います。

今回の提言は、数年・数十年先の秦野市の羅針盤となるべきものですが、それが風化することが心配です。

きちんと履行されるのか、検証はきちんと行われるのか、骨抜きにならないのか・・・

その確信が持てません。

そこでひとつの提案ですが、検討委員会解散後、委員会の皆さん及びスタッフでOB会を結成したらどうでしょうか？時々情報交換を行って進捗状況について（勝手に知る面々が）意見交換を行うというスタイルです。OB会にどういう性格を持たせるかということはありませんが、携わった関係者・スタッフが検証過程で何らかの意見を具申できる仕組みは是非とも必要と考えます。

3. Eメンバーのシステムについて

Eメンバーというのは、

「自由な時間の中で気軽に計画づくりに参加できる」

「市政への参加に興味はあっても、機会がなかった方などが参加しやすい、新たな協働のシステムを作る」

「多様で新たな人材を発掘し、市民力を活かした計画づくりを進めることができる」

などを期待して新たな手法として用いられました。その眼目は「安いコストで」「適切な意見を」「迅速かつ簡単に」集めることかと思いますが、必ずしも十分に機能したとは言えなかったのではないかと思います。

まず「安いコスト」ですが、これは意見 1 回につき 10 ポイント、20 ポイントにつき「地域貢献券 1 枚」、50 ポイントで「QUOカード 500 円 1 枚」ということで、コストとしては（Eメンバーの意見 1 回につき 100 円換算ですから）極めて安価に仕上がったと言えます。

一方、「適切な意見」については、今まで 9 回ほどの委員会が開催されましたが、正直 10 名の Eメンバーが意見を出し合う場面はありませんでした。

ですから、適切な意見ということではちょっと疑問符がついてしまうかも知れません。

背景としては、（ネットでの意見募集ということで、簡単に意見が言えると期待していましたが）いざ始まってみたら有識者の難しい言葉が飛び交い、各会で示される資料も難解な言葉や図表が並んでいてこれを理解するのは容易ではないため、結果として意見を述べる手法自体は簡単でしたが、内容は難解でとてもついていけない（気軽に意見を述べるようなレベルではない）というのが、私を含めた Eメンバーの率直な感想ではないかと思っています。

したがって、「迅速にかつ簡単に」という部分でも躊躇してしまうことに結びつく結果となりました。

アンケート結果も締め切りの期限を延長しましたが、10名中6名の意見ということで、全員の協力は得られませんでした。（第9回実施現在）

今後も、低コストで市民の意見を吸い上げる「Eメンバー」という手法は増えていくと思いますが、「市民力との協働」がシステムとしてうまく機能するかどうかは、スタッフのハンドリングにかかっていると思います。今回の状況を、今後の糧として参考にされることを望みます。

最後に、Eメンバーに選出され、市が抱える問題に対し市民として深刻さを喚起し、微力ながら意見を言える機会を与えて頂いたことに感謝いたします。

以上、雑駁ではありますが、「第9回検討委員会」への意見です。